

# 第6次国立大学法人等施設整備5か年計画（R8～12年度）概要

（令和8年3月31日 文部科学大臣決定）

資料5  
科学技術・学術審議会  
総会（第79回）  
R8. 4. 27

## 国立大学法人等に求められる役割

- 「**知と人材の集積拠点**」として複雑化する社会課題に教育と研究を通じて挑み、その成果を社会に還元することで**地域や世界と共に発展**
- 我が国の高等教育と学術研究の水準の向上・発展を図るための「**国家的な資産**」であり、**地域の貴重な「公共財**」でもある国立大学法人等のキャンパス・施設を、**多様なステークホルダーが「共創」する拠点、安全・安心な拠点として整備**

## 施設の目指す方向性

キャンパス全体の

### イノベーション・コモンズ（共創拠点）の実装化

多様で高度な知・人材・付加価値を生み出すため、共創拠点への転換をキャンパス全体に拡大し、多様な活動の相乗効果で更なる成果を創出



戦略的リノベーション等による老朽改善整備

### 地域の防災拠点の実現

災害発生時、多様なステークホルダー等の安全確保や教育研究活動を継続するための耐災害性の強化  
災害拠点病院や地域の避難所等としての防災機能の強化

### 整備の方向性

- ✓ 我が国最大・最先端の「**知のインフラ**」を最大限活用
- ✓ **研究力強化**への対応、**地域や産業界との共創活動を促進**（研究インテグリティ・研究セキュリティの確保にも留意）
- ✓ 災害発生時の**安全確保、教育研究活動の継続性の確保** など

### 施設マネジメントの方向性

- ✓ ミッションや経営戦略等を踏まえた**施設総量の見直し**の明確化
- ✓ 全学的な体制の下で**中長期的な施設整備計画を再構築**
- ✓ **財源の多様化の推進** など

イノベーション・コモンズ：キャンパス全体が有機的に連携し、ソフト・ハードの取組が一体となり、あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレーヤーが共創することで、新たな価値を創造できる拠点



デジタル化の体制強化



社会実装の推進



企業等とのオープンラボ



地域との屋外共創空間



リカレント教育の場



国際宿舎の交流空間

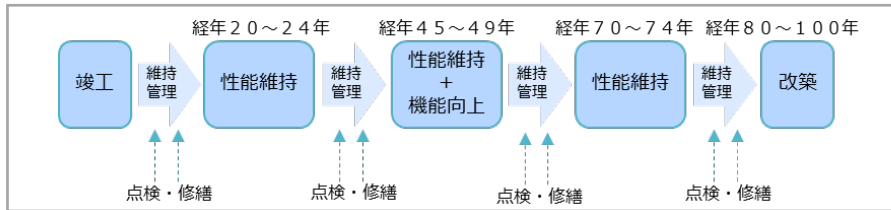
## 整備目標

総計：約820万㎡【約1兆4,500億円】（多様な財源を含む）

### 老朽改善整備

#### 戦略的リノベーションや性能維持改修による整備の加速化

- 保有する大量の老朽施設について耐災害性の強化や機能強化を推進
- 長寿命化のライフサイクルの定着によりトータルコストの縮減や経費の平準化を図りつつ、老朽改善整備を加速化



#### 保有面積の総量最適化

- 各国立大学法人等の状況に応じ、施設整備や維持管理の範囲や内容等についてメリハリづけを実施
- 老朽化した施設について、一定割合は取壊しを想定

<5年間の整備量> **約780万㎡** { 大規模改修・改築等 240万㎡  
性能維持改修 540万㎡

### ライフライン更新

- 事故の未然防止及び災害時の教育研究の継続性の確保等のため、計画的な整備を実施

<5年間の整備量> 配管・配線 : **2,200km**  
設備機器 : **3,500台**

### 新增築整備

- 新たな教育ニーズに対応するため、既存施設の有効活用では困難で真にやむを得ないものについては新增築により整備
- 国立大学法人等全体として、施設の総保有面積が計画期間中に増加しないよう留意

<5年間の整備量> **約15万㎡**

### 附属病院整備

- 現下の附属病院の経営状況を注視するとともに、医学教育や附属病院の機能等に係る議論等も踏まえつつ、今後の新たな計画等に応じて柔軟に対応



<5年間の整備量> **約25万㎡**

## 実施方針

国及び国立大学法人等が連携し、以下の取組を実施。

### 財源の確保

- 施設整備費補助金を始めとした**国の予算の安定的確保**
- 社会からの投資の呼び込みなど、施設整備にかかる**財源の多様化**

### 全学的な施設マネジメントの推進

- **長寿命化ライフサイクル**の定着や**保有面積の総量最適化**、**コストの平準化**に向けた取組の推進
- これらを踏まえた施設に関する**中長期的な計画の再構築**
- **カーボンニュートラル**に向けた施設の省エネ・創エネの取組

### 地方公共団体や産業界との連携

- 国立大学法人等と多様なステークホルダーとの**日常的な連携**の推進
- 施設の経年や改修履歴等の基本情報や利用状況等の**可視化**